

## 「信・不信」に関する調査

太 田 信 夫\*

「信じない」ということに関する研究(その1,第34回日本心理学会大会発表)の基礎資料を得るため,本調査は行なわれた.\*\* 信じる,あるいは信じない対象の概略を,各年代に於いて知ることを主目的とする。あわせて,その対象を信じるあるいは信じない理由をも調べようとするものである。この場合,「信じる」という言葉は,いろいろ定義づけができれば,本調査では,日常的な意味で被調査者が受けとる意味に従った。

### I. 方 法

(1)調査対象——表1のように,中学生以上,各年代にわたって男女約半数ずつに調査をした。小学生以下は,

予備調査から「信じる」という意味を,中学生以上の者とは,やや異なる意味で受けとったり,理解できない者がかなりいるようなので除いた。また,信じる対象は,環境によって規定される面が,大きいと思われるので,各年代ともできるだけいろいろの環境から,調査対象を選択した。中学生と高校生は,各2校ずつに,大学生は,4校に対して調査をした。勤労青年,一般は,ホワイトカラーからブルーカラーまで,十数社で調査をした。また,商人,主婦なども調査対象となった。なお,勤労青年は,30才未満の者としたが,男女とも大部分は高校卒業で,20才前後であった。一般の男女とも過半数は,平均年齢の近くに集中している。そして女子のほとんどは,主婦である。

表1 調 査 対 象

	中学生 (2年生)	高校生 (2年生)	大学生 (1,2年生)	勤労青年 (30才未満)	一 般 (30才以上)	計
男	88	96	165	141 (21.0才)	148 (44.0才)	638
女	85	79	185	142 (19.9才)	169 (38.5才)	660
計	173	175	350	283 (20.5才)	317 (41.3才)	1,298

( ) 内は平均年齢を示す。

(2)調査方法——質問紙法により,無記名で行なう。

(3)質問紙の内容——予備調査で各年代に対して,信・不信の対象を自由記述法によって調べた。そして,そのそれぞれの対象について,頻度を調べ,多いものから順に,できるだけ各年代に共通するような言葉にして,次の30項目を選択した。すなわち,「家族」「父」「母」「妻」「夫」「子供」「自分」「友人」「同僚」「上司」「部下」「大人」「男性」「女性」「人間というもの」

\* 大学院博士課程学生

\*\*本調査は第34回日本心理学会大会発表の資料を基に,調査対象の年齢を広げたり,更に同年令の被調査者を増したり,あるいは理由のところをさらにくわしく分析したりして,資料を再整理したものである。

「先生」「政治家」「神」「宗教」「霊魂」「運命」「愛」「古い」「お金」「一般的真理」「政治」「選挙」「学校」「会社」「教育」の30項目である。質問紙は,問1と問2に分かれ,問1では,これらの30項目の中から,口頭,自分が信じている項目には○印を,その中でも特に信じている項目には◎印をつけさせた。○印および◎印の数には制限はない。そして印をつけた項目には,信じる理由を簡単に書かせた。問2は同じ要領で,信じないということについて記入させた。

(4) 調査期日——1970年6月～9月

### II. 結果と考察

1. 「信じる」および「信じない」対象について  
上記の30項目に関しての,○印あるいは◎印について

## 「信・不信」に関する調査

整理したものが、図1, 3, 4, 5である。数字は、各年代における、印を(○印と◎印の合計)をつけた者のパーセントを示している。30パーセント以下の項目は、日頃あまり信じるとか、信じないということに関して

は、問題にされていない項目として、この表から除いた。以下発達の(年代的)観点から、あるいは性差の観点から結果を見ながら考察を進めてゆく。

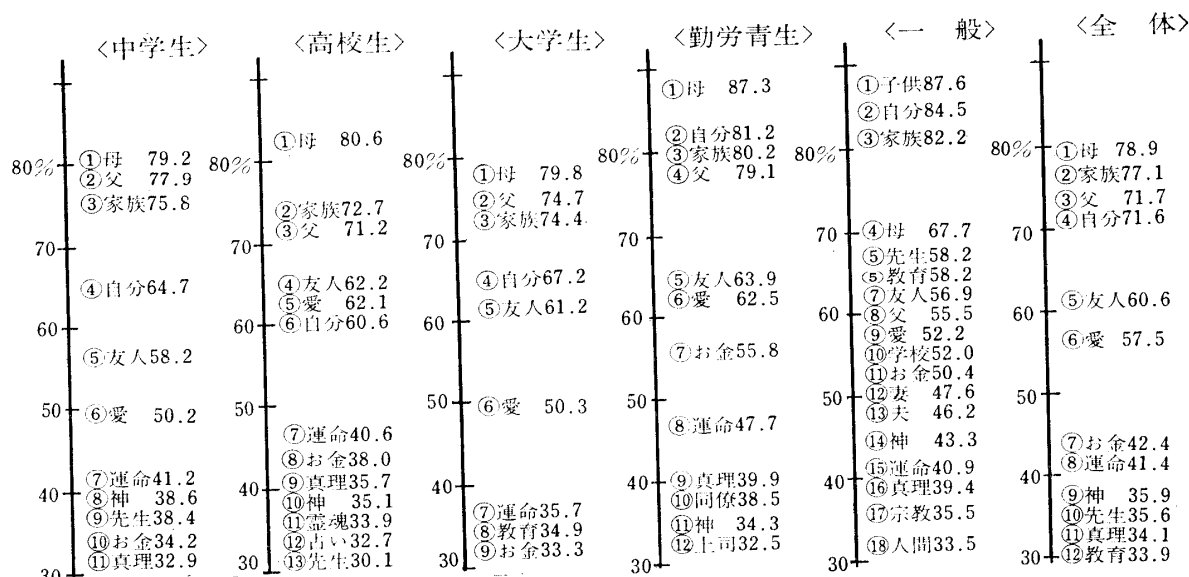


図1 信じる — (年代差)

注1. ①②は1位, 2位の順位を示す。

注2. 理由中「人間」は「人間というもの」の、「真理」は「一般的真理」の略。

図1は、信じる項目について年代別に整理したものである。年代別といっても、大学生と勤労青年は、大体同じ年代と考えてよい。ただ勤労青年の方が、やや、年齢の中が広いことに留意しなければならない。

まず、中学生から勤労青年まで、すなわち、青年期のどの年代においても「母」が第1位を占めている。約8割の者が母を信じている。男女別に分けると、勤労青年男子がもっともパーセントが高く、88.0%を示している(図4参照)。しかし全般的には男子よりも女子の方がパーセントが高く、とりわけ高校女子は86.1%と女子ではもっとも高い。けれども◎印のみの集計では、高校女子は、32.9%ともっとも低く、中学女子が58.3%と各年代男女別で最高のパーセントを示している(◎印のみの集計は表示してない)。すなわち、高校女子よりも中学女子の方が、母親を信じる深さは大と思われる。この傾向は、男子についても同様のことがいえる。次に図1からいえることは、各年代共、「父」「母」「家族」といった家族関係の項目が、トップグループを占めていることである。全体的に見ても、1位, 2位, 3位を占め、その平均は、75.9%と高い。ただし一般では、父母はもう死別していなかったり、同居していなかったりして、日頃、信・不信ということに関しては、あまり考えられ

ていない場合が多いので、少しそれらの項目のパーセントが低い。その他の年代では、大体3つの項目は、同程度のパーセントを示している。このように、家族関係の項目が上位を占めていることから考えれば、一般で子供が1位にランクされているのも理解できる。「自分」については、中・高・大学生と、実際に自分の力で生活している勤労青年、一般との差がはっきりしている。すなわち前者より後者の方が明らかに高いパーセントを示している。社会へ出ると、あるいは主婦のように、実際に家庭の切り盛りをしていると、自分を頼りにすることが多いようだ(後述の信じる理由についての結果参照)。男子においては、中学生60.2, 高校生66.7, 大学生72.1, 勤労青年82.9, 一般87.8と発達に従って次第にパーセントが増加している。また女子では、高校生がもっとも低く、「友人」と順位が入れ替わっているのが特徴的である。「友人」については図1からわかるように、年代毎の変化はほとんど見られない。「自分」と同じことがいえる項目に「お金」がある。勤労青年や一般では、お金を手に入れることが、生活の大きな目的と考えれば、当然の結果ともいえよう。次に「愛」については、高校生と勤労青年が、高いパーセントを示しているが、特に、高校女子が◎印のみの集計では2位(39.6%)を占めて

いることが注目される。しかし、後述の不信についての結果では、その項目に関して、高校生はもっとも不信のパーセントが高い。すなわち、高校時代は、他の年代にくらべ、愛について感受性が強く、信・不信の両極に分かれやすい年令といえよう。「神」と「先生」についてのパーセントを年代別にみても同じようなパターンを示している。このことを明確にするため、グラフにしたのが図2である。両項目とも中学、高校、大学と徐々に

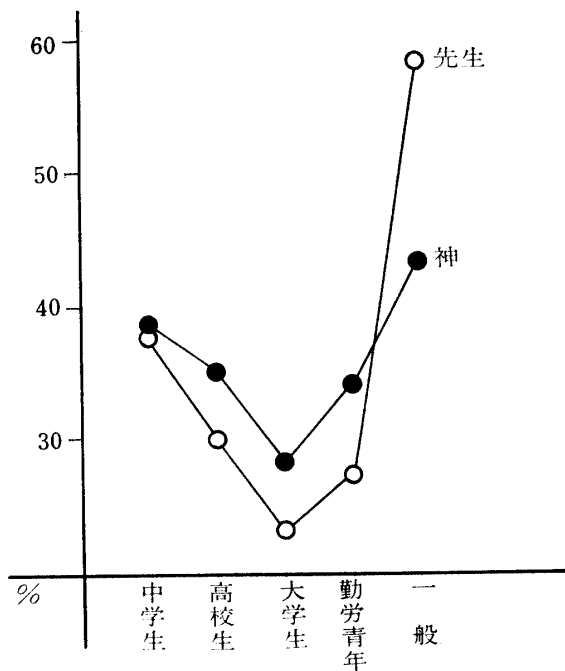


図2 「神」と「先生」について

に低下し、勤労青年、一般と再び上昇している。一般が

一番パーセントが高いことは、後述の不信についての結果で一般が一番パーセントが低いことを考え合わせれば、先生や神に対して、信頼感あるいは信心のようなものが増加していることは明らかである。次に「一般的真理」については、大学生のみが22.3%と他の年代に比べ、低いパーセントを示している。

以上、図1を中心にして、年代差の観点から特徴的なことを述べてきたのであるが、最後に見落してならないことは、一般の「夫」「妻」の項目である。図1の数字は男女の平均を表わしているのですがそれらの項目は順位が低いが、男女別に整理してみると、男子にとって「妻」は88.5%と、信の1位となり、女子にとって「夫」は、88.2%と「子供」に次いで2位にランクされている。また、◎印のみの集計では、両項目は共に1位を占めている。このことは、後述の性差の観点から整理した図4に示されている。

図3は「信じない」ことについて、図1と同じ要領で表わしたものである。どの年代においても、第1位は「政治家」が占めている。全体でも、68.3%と2位以下の項目と比べ、差があり、明らかに1位にランクされているといえよう。この項目に加えて、「選挙」「政治」といった政治関係の項目がトップグループを占めている。これらの項目のパーセントは、年代間には目立った差はない。政治関係の項目とならんで、上位を占めているものに「大人」がある。中学生、高校生共に2位を占め、大学生、勤労青年では、それよりも少し低いパーセントだが約半数の者が大人に不信感をもっている。◎印のみの集計では、高校男子がもっとも高く、37.5% (1

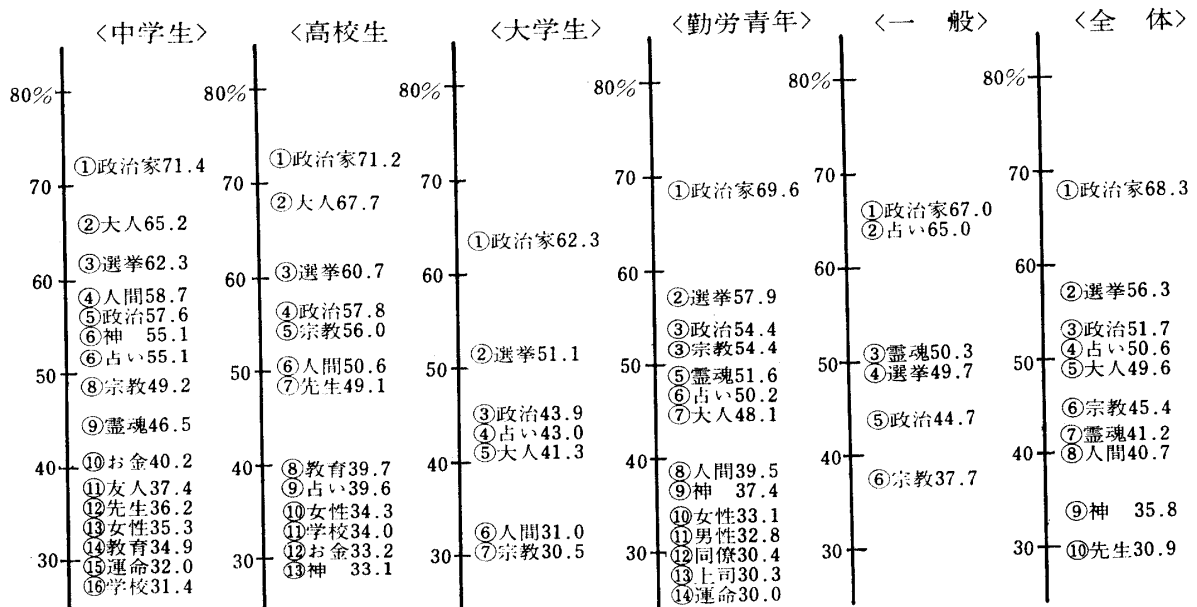


図3 信じない — (年代差)

「信・不信」に関する調査

位)を示している。「人間というもの」も「大人」と同じパターンを示し、大学生、勤労青年にくらべ、中学生、高校生のパーセントが高い。次に「神」については、中学生が他の年代にくらべ、もっとも高く、55.1%を示している。特に男子においては「政治家」に次いで2位を占め、75.6%という非常に高いパーセントを示している。「占い」は高校、大学、勤労青年、一般と徐々に不信が高まっている。特に一般では、2位と高いパーセントを示している。とりわけ、一般男子は73.6% (1位)と多くの者が占いを信じていないようだ。「お金」に関しては、前述の信じる項目とは対照的に、中学、高校生では他の年代にくらべ、高いパーセントを示している。換言すれば、働く者ほど不信感が減少しているとい

える。「先生」に対する不信感は、高校生が高く、中でも男子がもっとも高く61.5%と過半数の者が先生を信じていないといえる。また「自分」を信じていない者も高校男子にもっとも多く31.3%を示している。◎印の集計だけでも他と明らかに区別でき、16.7%の者が自分を信じていない。これはある意味では青年期の特徴を、高校男子が代表しているともみられる。

以上、信・不信について、項目毎に、顕著な結果のみを年代的な観点から述べてきたが、全般的に一般は、他の年代にくらべ、信の印を多くつけ、不信の印を少なくつけている。すなわち、壮年期の者は、青年期の者より、信じるものが多く、信じないものは少ないといえよう。

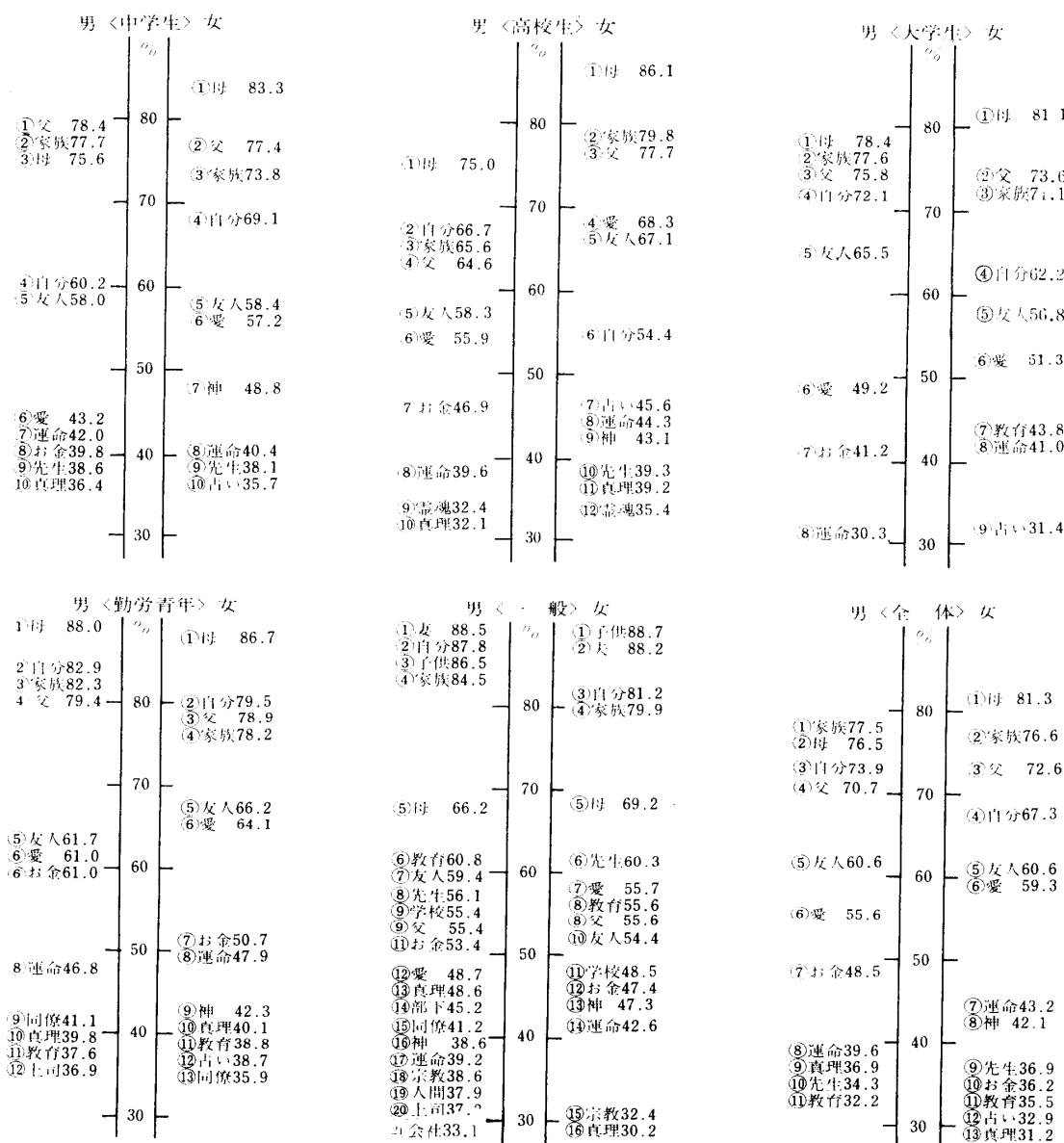


図4 信じる——(性差)

次に性差の観点からみてみよう。図4は、信について各年代別に整理したものである。まず中学生においては男子では1位「父」、2位「母」で、女子では1位「母」、2位「父」と、順位が男女でいれかわっている。共に同性の親をもっとも信じているわけである。男子が女子より高いパーセントを示すのは、「お金」、その反対に女子の方が高いのは、「自分」「愛」「神」である。次に高校生における性差をみると、「父」「母」「家族」といった家族関係の項目は、やや女子のパーセントの方が高いことがまず注目される。「自分」については中学生とは逆に、男子の方が女子よりパーセントが高い。「お金」は中学生と同様に男子の方が信じているといえる。また女子の方が、パーセントが高い項目は、「愛」

「古い」「神」「先生」である。大学生では、高校生と同じく「自分」「お金」において男子のパーセントが高い。そして「教育」「運命」「古い」については、女子の方が信じているといえる。次に勤労青年では、「お金」「上司」の項目について、男子の方が、パーセントが高い。反対に女子の方が高い項目は、「神」「古い」である。一般における性差では、「部下」「同僚」「会社」など、仕事の関係の項目は、男子が女子よりパーセントが高い。その他男子の方が信じている項目は、「一般的真理」がある。男子より比較的女子の方が高いパーセントを示している項目には、「愛」と「神」がある。信じることに関する性差について、全体的にみると、明らかに差があるのは、「お金」では男子が、「神」「古

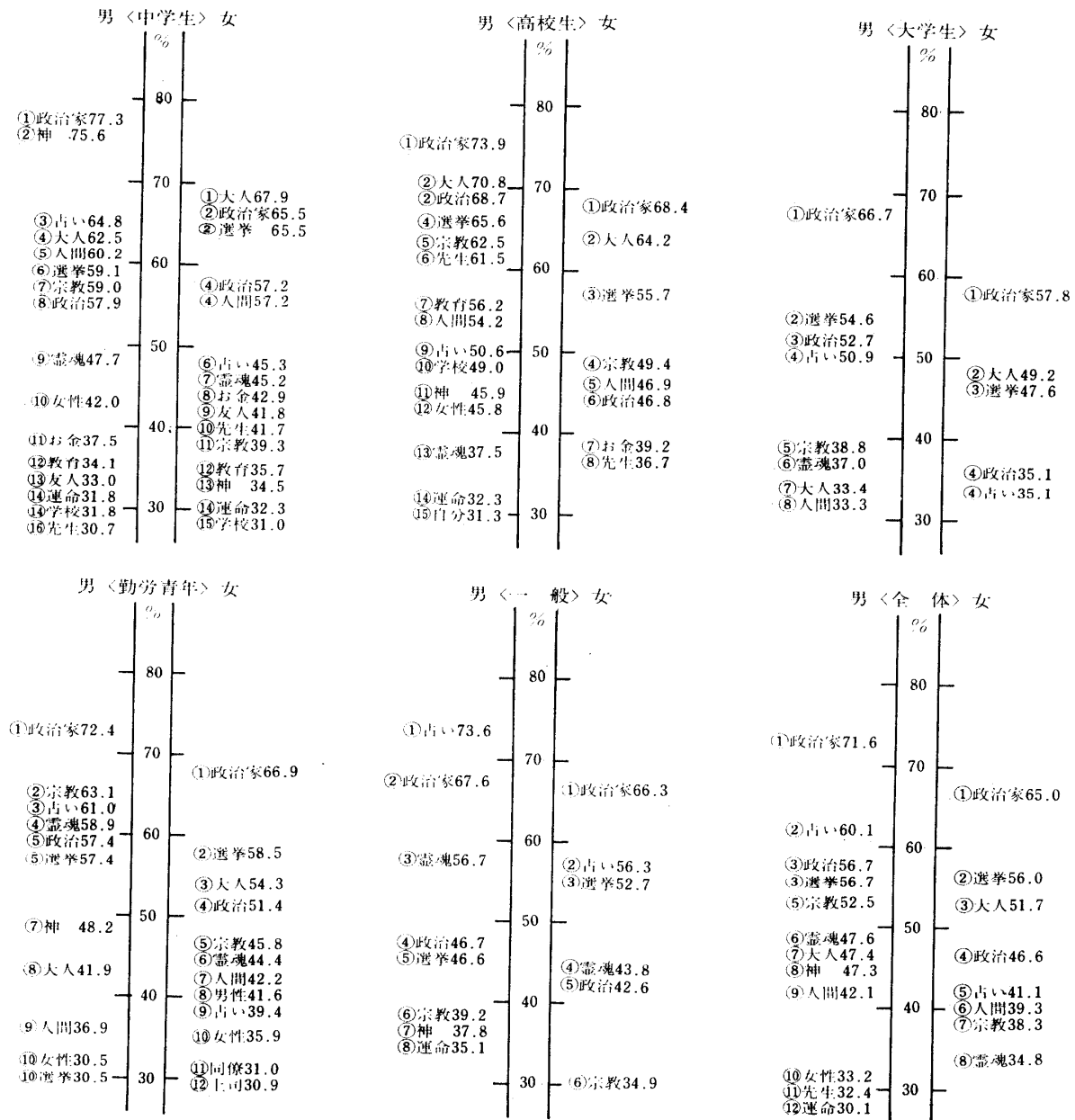


図5 信じていない (性差)

「信・不信」に関する調査

い」では女子の方が信じているといえる。大体の傾向としては、「自分」「お金」「一般的真理」といった現実的、具体的な項目は男子、「愛」「運命」「神」「占い」といった観念的、非現実的な項目は女子の方が信じているといえよう。

図5は、不信について各年代別に整理したものである。中学生において、男子の方が女子より不信のパーセントが高いのは「政治家」「神」「占い」「宗教」「女性」の項目である。反対に女子の方がパーセントが高いのは、「友人」「先生」といった身近な対人関係にみられる。高校生においては、多くの項目について、男子のパーセントの方が高い。すなわち「政治」「選挙」「学校」「教育」など、社会的、現実的な項目や、「宗教」「神」「霊魂」「運命」「占い」といった宗教的、非現実的な項目など、いろいろと性質の異なる多くのことに不信感をもっているようだ。「先生」も男子のパーセントが高いが、これは中学生とは逆である。しかし「女性」については、中学生と同じく男子の方がパーセントが高い。次に大学生では、「政治」「占い」「宗教」「霊魂」といった項目は男子の方がパーセントが高く、「大人」「男性」では女子の方が高い。勤労青年において男子の方がパーセントが高いのは、「宗教」「神」「霊魂」「占い」など宗教的な項目である。それに対して、女子の方がパーセントの高い項目は、「大人」と「男性」である。客観的にみれば、大人とみられる大学生や、勤労青年において、女子では約50%の者が、大人に対して不信感を抱き、男子よりパーセントが高いということは、女性自身からみれば、男子より大人としての意識が低いのかかもしれない。また、社会的にみれば、一人前として扱ってもらえないためかもしれない。また、「男性」「女性」について、中学生、高校生では「女性」に関して性差があり、大学生、勤労青年では「男性」に対して性差があることに注目したい（大学生は表には出ていないが「男性」に対して女子が27.5%、男子が7.9%で女子の方が高い）。次に一般においては、勤労青年と大体同様に、「占い」「霊魂」「神」「運命」などの項目で男子の方が不信のパーセント高い。以上、不信について各年代毎にみてきたが、全般的には男子の方が女子より不信のパーセントが高い。項目では、「政治家」「政治」など政治関係の項目と、「宗教」「霊魂」「神」といった宗教的な項目、それに「占い」などが男子の方が信じていない項目である。また、「男性」に対しては女子の方が、「女性」に対しては男子の方がパーセントが高く、お互に異性に対して、同性より不信感が大きいといえる。

これまでは、年代差および性差の観点から結果を見な

がら考察を進めてきたので、最後に、信と不信との比較の観点から全体的にみてみよう。信あるいは不信どちらかにはっきりしている項目について、両方のベストテンを示したものが表2である。信・不信、各々についてそのままパーセントの高い順に列挙する。信・不信両方に出てくる項目があるので、それらの項目は、両方又は片方を除いて、ベストテンの項目を選択した。すなわち「神」「先生」「教育」は、信・不信共に、同程度のパーセントであるので除いた。また「運命」「お金」は、不信のパーセントより信のパーセントの方が高いので、不信の方のその項目は除いた。

表2 信・不信のベストテン

順位	信じる		信じない	
1	母	78.9% (42.0)	政治家	68.3% (27.4)
2	家族	77.1 (35.7)	選挙	56.3 (16.2)
3	父	71.7 (33.3)	政治	51.7 (14.9)
4	自分	71.6 (37.8)	占い	50.6 (14.9)
5	友人	60.6 (12.5)	大人	49.6 (14.2)
6	愛	57.5 (21.7)	宗教	45.4 (14.7)
7	お金	42.4 (12.8)	霊魂	41.2 (12.1)
8	運命	41.4 (9.5)	人間	40.7 (11.9)
9	真理	34.1 (5.1)	女性	28.6 (4.9)
10	子供	29.1 (9.6)	男性	24.7 (3.4)

( )内は、◎印のみのパーセント

表2からまず信に関しては、「母」「家族」「父」といった身内の者を信じ、次に「自分」そして「友人」となっている。「自分」と「友人」は順位では続いているが、◎印の、○印と◎印を合計した数に対する割合をみると、「自分」では52.8% (2位)であるが、「友人」では20.6% (9位)と低い。すなわち、自分を信じている者の中には強く信じている者が多く、友人を信じるといっても、強く信じている者は少ないといえよう。次いで「愛」「お金」が信じられている。人間が生きてゆく上で愛は精神生活において、お金は実生活において必要不可欠のものである。なお、「子供」は、調査対象が、まだ自分の子供のいない青年期の者がほとんどなので、10位と比較的低いが、子供のある一般の間では第1位にランクされている。次に不信に関してのベストテンをみると「政治家」「選挙」「政治」といった政治関係の項目に強い不信がみられる。このことは、「大人」や「人間」に対する不信とも重なる部分があろう。自分と

か身内の者を信じ、一般的な大人、人間には不信感があることに注目したい。さらに不信については「宗教」「靈魂」といった宗教的なものが上げられる。そして9位、10位には性差のところ而言及したように、男子、女子お互に異性に対する不信感である「男性」「女性」の項目が入っている。

2. 「信じる」および「信じない」理由について

○印あるいは◎印をつけた項目について、簡単にその理由を書かせた。その理由をカテゴライズして、年代別

・性別に整理した。信じあるいは信じない理由を、短時間に短文で書き表わすことは難しく、各年代とも、2、3割の者は白紙であった。特に一般は、調査の実施上のまずきもてつだい、過半数のものが印のみで理由については白紙であった。したがって表では、一般を除いた年代について記入した者についてのみ整理をした。紙面の都合上、信・不信共2項目ずつ重要な項目をとりあげてみることにする。

まず「母」を信じる理由についての分析をしたものが表3である。

表3 「母」を信じる理由

		中学生		高校生		大学生		勤労青年		全体		代表的な例
保 護	男	25.0	20.6	16.4	17.5	13.8	11.6	20.8	15.0	17.6	15.3	いろいろと面倒をみてくれるから 守ってくれるから
	女	16.4		18.4		9.7		11.1		13.3		
理 解	男	54.7	56.5	20.9	32.2	39.9	48.3	58.3	53.3	40.3	46.8	自分を理解してくれるから、 話し合ってくれるから、悩み をきいてくれるから
	女	58.2		42.1		55.6		50.0		52.3		
血 縁	男	14.1	13.7	29.9	23.8	24.4	19.5	20.8	16.7	23.0	18.9	血がつながっているから 生活を共にしているから
	女	13.4		18.4		15.3		13.9		15.6		
敬 愛	男	1.6	3.1	10.5	9.8	5.7	7.5	0	8.3	5.4	7.2	尊敬しているから 好きだから
	女	4.5		9.2		9.0		13.9		8.6		
信 念	男	1.6	2.3	13.4	9.8	8.1	5.6	0	0	7.2	5.3	自分の信念として信じるある いは信じたいから
	女	3.0		6.6		3.5		0		3.7		
その他	男	3.1	3.8	9.0	6.0	8.1	7.5	0	6.7	6.5	6.5	
	女	4.5		5.2		6.9		11.1		6.5		

(表中の数字は各年代および男女別々におけるパーセントである)

全体では、「理解」が約半数を占め、次いで「血縁」「保護」の順序になっている。この傾向は、どの年代も大体同様であるが、中学生は、「保護」が「血縁」よりパーセントが高くなっている。年令も低く、実際にも保護されることが多いためであろう。各カテゴリー毎の性差についてみると、全体では、「保護」「血縁」「信念」では男子、「理解」「敬愛」では女子のパーセントが高くなっている。特に、高校、大学生の女子は、男子より自分を理解し話し合えるという「理解」が母を信じる大きな理由になっている。反対に高校男子は、「理解」のパーセントが高校女子にくらべ、あるいは他のどの年代よりも低い。すなわち、母親との間に心理的なずれがあり、うまく疎通ができていないようである。

表4は、「自分」についての理由の分析結果である。全体的にみると「消極」「積極」が他のカテゴリーに

くらべパーセントが高い。この傾向はどの年代でも大体同じであるが、中学、高校生ではこの二つのカテゴリーの他で、「当然」が多くなっている。また、高校生では「積極」より「消極」のパーセントが高いけれども、勤労青年ではその反対に「積極」の方が高い。すなわち、勤労青年では自分に対する自信が大きいと考えられる。これは「理解」のパーセントが他のどの年代よりも多いという事実にも原因していることだろう。またこの結果は、前述の信の対象についての分析結果とも一致しているといえる。次に性差に関していえば、全体では「積極」では男子の方が、パーセントが高く、「消極」では女子の方が高い。特に高校、大学女子は男子よりも自分を消極的にしか信じていない。また「当然」では、勤労青年男子が女子にくらべ高いパーセントを示している。

表5は「政治家」を信じない理由についての分析結果である。

「信・不信」に関する調査

表4 「自分」を信じ理由

		中学生		高校生		大学生		勤労青年		全体		代表的な例
消極	男	25.5	29.2	25.9	35.7	21.2	28.2	10.0	14.0	22.3	28.4	信じなければ何もできないから 生きてゆけないから
	女	32.7		50.0		34.6		16.2		34.0		
積極	男	27.7	28.1	25.9	22.5	40.4	36.8	35.0	33.3	33.5	31.7	自分しか頼るものがないから 思った通り行動できるから
	女	28.6		17.5		33.7		32.4		29.7		
願望	男	2.1	2.1	6.9	4.1	3.0	4.8	0	3.5	3.6	3.5	自分を信じたい、自分に忠実 でありたいから
	女	2.0		0		6.4		5.4		4.2		
理解	男	6.4	4.2	6.9	5.1	9.1	7.2	15.0	15.8	8.5	7.2	自分のことは自分が一番よく わかっているから
	女	2.0		2.5		5.5		16.2		5.9		
体験	男	6.4	9.4	3.5	4.1	3.0	4.3	0	3.5	3.6	5.2	自分のすることは正しいから、 皆から信頼されているから
	女	12.2		5.0		5.5		5.4		6.8		
当然	男	19.2	17.7	17.2	15.3	14.1	9.1	30.0	15.8	17.4	13.1	当然であるから、皆それぞれ 自分を信じているから
	女	16.3		12.5		4.6		5.4		8.9		
その他	男	12.8	9.4	13.8	13.3	9.1	9.6	10.0	14.0	11.2	10.9	
	女	6.1		12.5		10.0		16.2		10.6		

表5 「政治家」を信じない理由

		中学生		高校生		大学生		勤労青年		全体		代表的な例
利己主義	男	12.9	14.8	29.2	27.8	20.3	18.4	28.6	24.5	21.3	20.6	自分の利益のことだけ考えて いるから 立身出世のために 何でもやるから
	女	17.8		26.0		16.5		21.4		19.8		
うそつき	男	41.4	35.7	21.5	24.5	16.5	19.0	19.1	26.5	25.5	25.6	口先ばかりでうそつきだから 実行が伴わないから
	女	26.7		28.0		21.5		32.1		25.7		
悪事	男	14.3	16.5	10.8	13.0	13.9	13.3	9.5	12.2	12.8	14.0	汚職をするから 選挙違反をするから
	女	20.0		16.0		12.7		14.3		15.4		
人格	男	12.9	10.4	10.8	8.7	17.7	17.1	9.5	12.2	13.6	12.6	もっともいやらしいから 人格的に尊敬出来ないから
	女	6.7		6.0		16.5		14.3		11.4		
現状	男	5.7	7.0	10.8	13.9	15.2	17.7	19.1	10.2	11.5	13.0	現実の政治あるいは社会が 良くならないから
	女	8.9		18.0		20.3		3.6		14.9		
その他	男	12.9	15.7	16.9	12.2	16.5	14.6	14.3	14.3	15.3	14.2	
	女	20.0		6.0		12.7		14.3		12.9		

全体的には、「うそつき」「利己主義」が比較的高いパーセントを示している。年代別にみると、中学生では「うそつき」が他のカテゴリーにくらべ高いパーセントを示していることが注目される。特に男子は女子よ

りパーセントが高い。また大学生になると「人格」「現状」のパーセントが高くなって来る。

表6は、「大人」を信じない理由の分析結果である。全体的には「利己主義」「うそつき」のパーセントが高



い。特に中学生では「うそつき」を大きな理由としている。高校生では「妥協的態度」のパーセントが高いのが特徴である。また大学生では、他の年代にくらべ「理解」のカテゴリーのパーセントが高い。性差については全体的には「感情的嫌悪」「理解」で女子の方がやや高いパーセントを示している。また「利己主義」では勤労青年女子の方が男子より、「妥協的態度」では大学生男子の

方が女子よりパーセントが高いことが注目される。

以上、信・不信について顕著な項目についてのみ、その理由の分析をしたのであるが、カテゴライズの仕方が難しく、一応理由を分類はしたものの、カテゴリー間で重なる部分が多いと思われる。理由を書きやすくする工夫と、そのカテゴライズの仕方は、今後のこの種の調査の課題であろう。

表6 「大人」を信じない理由

		中学生		高校生		大学生		勤労青年		全 体		代 表 的 な 例
利己主義	男	24.1	25.0	28.3	25.8	16.3	21.3	12.5	33.3	22.8	24.7	自分勝手だから 打算的だから
	女	25.9		21.6		24.4		40.0		26.3		
うそつき	男	48.2	43.8	20.0	20.6	34.7	29.1	0	6.1	32.2	29.3	うそが多いから その場によって態度が変わるから
	女	39.7		21.6		25.6		8.0		26.8		
感情的嫌悪	男	7.4	7.1	10.0	10.3	4.1	10.2	12.5	15.2	7.6	9.8	やり方がきたないから、きらい
	女	6.9		10.8		14.1		16.0		14.1		
悪事	男	11.1	10.7	6.7	7.2	2.0	2.4	0	3.0	6.4	6.2	悪いことをするから
	女	10.3		8.1		2.6		4.0		6.1		
妥協的態度	男	1.9	4.5	16.7	20.6	22.5	15.0	25.0	12.1	14.0	13.0	何事も適当にすますから 信じるものを持ってないから
	女	6.9		27.0		10.3		8.0		12.1		
理解	男	0	1.8	3.3	2.1	8.2	15.0	0	3.0	3.5	6.5	何を考えてるかわからないから 自己防衛的だから
	女	3.5		0		19.2		4.0		9.1		
その他	男	7.4	7.1	15.0	13.4	12.2	7.1	50.0	27.3	13.5	10.6	
	女	6.9		10.8		3.9		20.0		8.1		

### Ⅲ. ま と め

信・不信の対象と、その理由の一般的傾向を知るために本調査は行なわれた。30項目について中学生以上の各年代の人に、日頃信じている項目、あるいは信じていない項目に印をつけてもらった。その結果、家族の人達をもっとも信じられており、次いで「自分」「友人」の順に信じられていた。また信じないのは「政治」およびそれに関連することがトップを占め、次に「古い」や「大人」が続いている。そして青年期の人とくらべ、大人は信じることが多くなり、信じないことは少なくなる傾向にある。また男子は、「自分」「お金」といった現実的、具体的なものを信じ、宗教的なことに不信感を抱いているのに対し、女子は、「愛」「運命」「神」といった観念的、非現実的なものを信じていた。以上は、信・

不信の対象についての結果であるが、それらの対象に対する信・不信の理由を次に分析した。一部の項目についてより述べられなかったが、カテゴライズの仕方など問題点があり、さらに今後の研究が必要とされよう。

以上が本調査の大体の結果であるが、各年代の信・不信の一般的傾向を正確にとらえたとはいえない問題点もいくつか上げられよう。すなわち、調査目的からして30項目で足りているかどうか、また言葉の表現はよかったか、これについては、例えば、「先生」を信じるといっても、一般的な先生なのか、特定の先生なのかかわからないので、調査用紙に、補足的説明の欄を設けた。しかし、過半数の者が、説明をしていないので一般的と思われる。問題点として他に、調査対象の選び方は片よっていなかったか、年代の分け方はよかったか、また、ほとんど統計的な検定によらないで考察を進めたが、無理な

## 「信・不信」に関する調査

結論を出していないかどうか、等々がある。いずれにしても、信じるとか信じないとかいう問題は、各個人の主観的な、それも emotional な面の強いものなので、簡単な質問紙でとらえることは困難のようだ。方法論的な

工夫が大いに必要と思われる。

(附記) 本調査の報告までには、力富敬子、永田忠夫、植村勝彦、沼尾孝平の諸氏の多大の御協力を得た。ここに記して、心から感謝します。